

令和4年度 大池中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	72	62	35	44	8.1	20.4	4.3
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

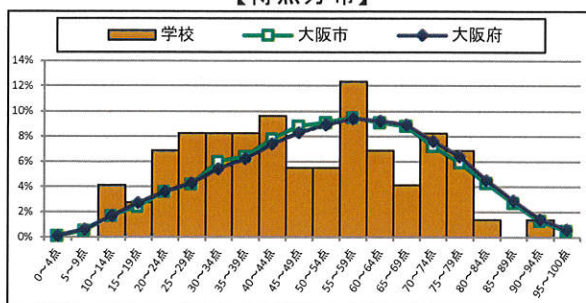
2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	73	47.6	48.7	44.2	47.3	42.1	16.1	5.9	14.9	8.4	9.8
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

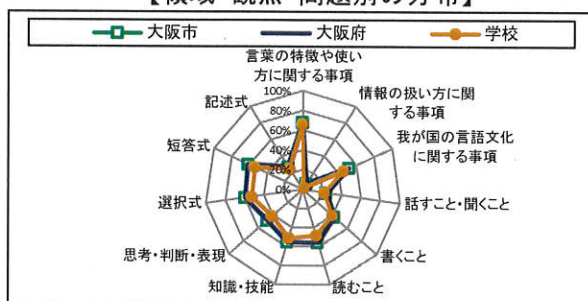
※ 3年生の理科はC問題を選択

【国語】

【得点分布】

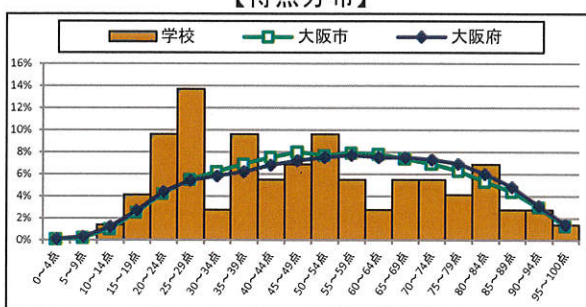


【領域・観点・問題別の分布】

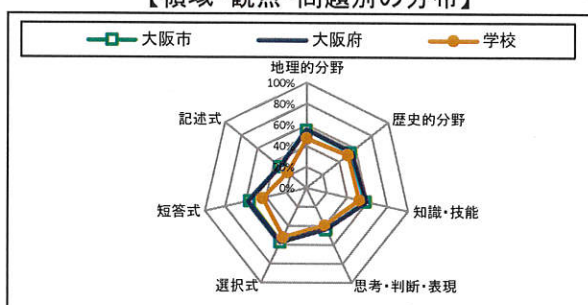


【社会】

【得点分布】

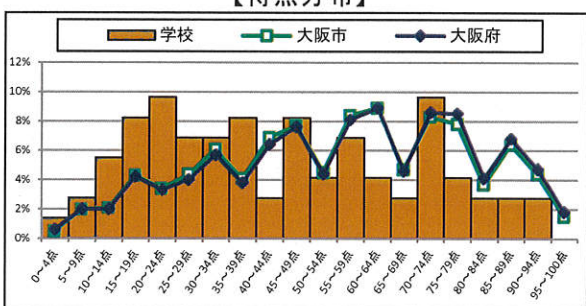


【領域・観点・問題別の分布】

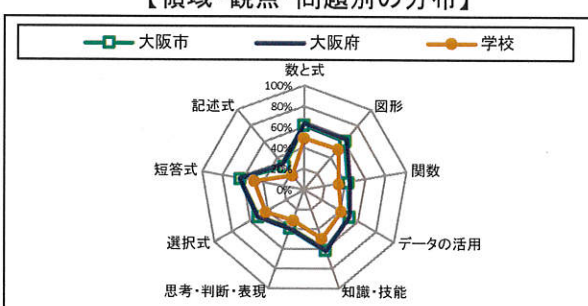


【数学】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

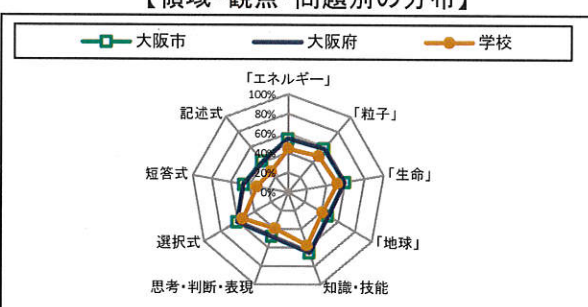


【理科C】

【得点分布】

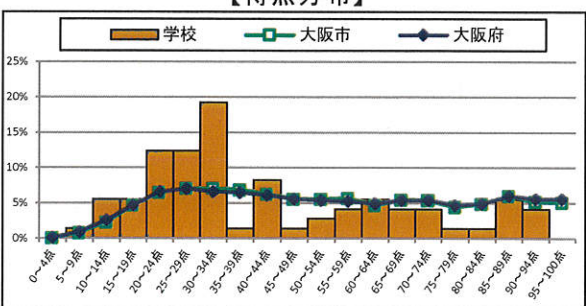


【領域・観点・問題別の分布】

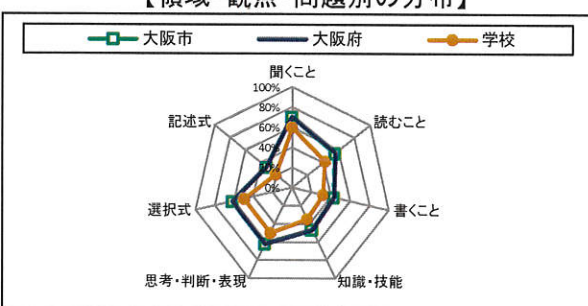


【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】



調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜全体＞平均正答率は全国をかなり下回りました。特に数学に対して大きな課題がありました。また、国語・数学ともに平均無回答率も全国平均を上回りました。

＜国語＞全国と比較して、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域において少しの改善ができましたが、「話すこと・聞くこと」領域においては、全国平均との差が広がりました。

＜数学＞ 全国と比較して、特に「関数」領域ではかなり差がありましたが、「データの活用」領域は、差が縮まりました。

＜理科＞全国と比較して、「粒子」を柱とする領域では、大阪市平均を上回りほぼ全国平均であったが、「エネルギー」を柱とする領域では、下回りました。

＜生徒質問紙より＞「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、全国平均を上回り、自尊感情が高くなってきています。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目では、肯定的に答える生徒が多く、日ごろの人権学習の成果が出ていると思われます。ただ、「家で自分で計画をたてて勉強しているか」の項目では肯定的な生徒が少なく、また「スマホでSNSの動画視聴をする」生徒が多い結果が出て、家庭での時間の作り方が課題であることがわかりました。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞平均点は大阪府平均を下回っていますが、経年で考察すると、ほぼ同じでした。

＜課題＞数学の「数と式」「関数」、英語の「読むこと」の各領域においては、大阪府平均との差が他の領域と比較すると大きいと、ICT機器の活用や自習室の開放、補充学習の実施などを引き続き、取り組みを続けていきます。